

## 好きやねん大阪



日本証券アナリスト協会 常務理事  
渥 美 恭 弘

2025年の大阪・関西万博が決定して、大変喜んでいる。20年の東京オリンピック・パラリンピックの5年後の大阪万博になるが、前回の1964年の東京オリンピック、70年の大阪万博と似たような並びになったことにも不思議な縁を感じる。私は、大阪出身ではないが、20年ほど前に大阪に2年間勤務していたことがある。当時、急遽阪神タイガースファンになり、大阪弁をしゃべりたいと思うようになり、「好きやねん大阪」というタイトルで講演を何度もしていたことがある。素直に今回の決定を喜びたい。

今思い出すと、大阪勤務当時、「大阪学」・「続大阪学」という大谷晃一氏の本がベストセラーとなり、大阪ブームが興っていて、私も講演の参考にさせてもらった。講演では、次のようなこととお話したが、今もこれらの大阪に対する思いは全く変わっていない。

①大阪弁が大阪文化の象徴である。大阪弁はユーモラスな笑い志向の言葉である。相手が自分と同じレベル・仲間であることを前提にした言葉であり、相手を自分と同じレベルに引き寄せてしまい、心理的な距離を縮めてくれる魔法のような力を持っている。言わば「本音」の言葉である。